

シンポジウム 「QOLを向上させる最先端スポーツ活動」

座長：西原 康行（新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 教授）

本学義肢装具自立支援学科におけるパラアスリート支援
ネットワークの構築と教育



東江 由起夫

義肢装具自立支援学科 教授

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技会を迎えるにあたり、全国各地で障がい者スポーツの理解ならびに支援体制を強化するために体験等の取り組みがなされている。こうした背景を受け、本学義肢装具自立支援学科においても2017年より「障がい者陸上教室 ParaTFC」を立ち上げ、新潟県における障がい者陸上競技に参加する切断者の掘り起こし、スポーツ用義足の製作適合、パーツ等の貸し出し、トレーニング等を行い、パラアスリートへの育成を目的に活動を開始した。障がい者陸上教室ParaTFCは月1回、本学室内トラック等を会場に開催され、本学科教員ならびに学生を中心に健康スポーツ学科教員、理学療法学科教員、近隣の義肢装具製作企業に勤務する義肢装具士等から構成されている。現在、数名の下肢切断者が参加し、これまでに新潟県障がい者スポーツ大会や、県代表として全国障がい者スポーツ大会に送り出すほどの活動に至っている。

こうした活動を通して本学科学生は、障がい者スポーツに理解を深め、同時にスポーツ用義足について学んでおり、将来、これらを専門にする義肢装具士の育成につながり、結果として義肢装具分野における障がい者スポーツの支援体制の構築化を推進するものと考えられる。また、トレーニング等の指導においては健康スポーツ学科や理学療法学科等の学内の学科との連携が強化され、さらには近隣の義肢装具製作企業、近隣病院、新潟県障がい者スポーツ協会等の学外との連携も強化される。そのことから本学を中心としたパラアスリート支援ネットワークの構築化と人材育成の構築化がなされるものとする。

本シンポジウムでは、こうした活動について紹介し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技会を終えた後も、継続してパラアスリートを支援するためのネットワークの構築化と人材育成に向け、皆様と充実したディスカッションができればと願っている。

<略歴>

1985年4月	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所補装具製作部主任義肢装具士
1991年3月	東京電機大学工学部二部機械工学科卒業
2000年1月	オートボックジャパン株式会社 テクニカルフォーラム推進室長
2001年4月	早稲田医療技術専門学校 義肢装具学科学科長
2003年3月	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻福祉援助工学分野修士課程修了（保健医療学修士）
2007年4月	新潟医療福祉大学医療技術学部義肢装具自立支援学科 教授
2011年4月	同大学同学科 学科長

<資格>

義肢装具士

研究会、臨床バイオメカニクス学会、新潟医療福祉学会、新潟県難病支援ネットワークなど

<社会活動>

義肢装具士国家試験委員会委員、日本義肢装具士協会監事、新潟県義肢装具職業技能検定試験委員など

<特記事項>

第12回日本義肢装具士協会学術大会
(2005.7.16-17) 大会長
第23回リハ工学カンファレンスin新潟
(2008.8.27-29) 副実行委員長
第19回新潟医療福祉学会学術大会
(2019.10.26) 大会長

<学会活動>

日本義肢装具士協会、日本義肢装具学会、国際義肢装具協会 (ISPO)、日本リハビリテーション工学協会、臨床歩行分析研